

化学グランプリ・オリンピック委員会から

本委員会は全国高校化学グランプリの運営および国際化学オリンピックへの参加に関わる実務を担当している。グランプリは1998年の試行を経て1999年から全国規模で開催されるようになってから6回を重ね、参加者も1,200名を超えるようになり、化学の一大イベントとして定着しつつある。また、2003年より参加が実現した国際化学オリンピックも、2004年は金メダル1、銅メダル3と参加者全てがメダルを獲得する快挙を成し遂げたのはご存知の通りである。

一方、化学以外の国際レベルでの「科学オリンピック」としては、日本も1990年から参加している数学オリンピックの他に、物理、生物、情報、天文のオリンピックがあり、このうち物理、生物については日本も参加の準備が進められている。これらの科学オリンピックへの参加は、幸いなことに文部科学省・科学技術振興機構による支援体制が整えられつつあり、我々としても心強い限りである。このような状況下、さる3月30日、科学技術振興機構・国際科学技術コンテスト支援事業推進委員会（委員長：金澤一郎 国立精神・神経センター総長）がお台場の日本科学未来館で開催され、化学オリンピックに派遣された諸君が、数学オリンピックの代表生徒と共に委員からヒアリングを受けた。その際、科学技術推進機構のご配慮により、同館の毛利 衛館長と対談させて頂く機会が設けられた。そこで、今回はその際の様子を簡単に紹介したい。

当日は化学オリンピック代表生徒として、2003年ギリシア（アテネ）大会代表の佐藤直人君および2004年ドイツ（キール）大会代表の神戸徹也君、小山貴広君、増田光一郎君の4名が出席した。なおドイツ大会代表の川崎瑛生君は、2005年台湾（台北）大会の代表に続けて選ばれており、丁度その訓練の合宿期間中であったため、残念ながら欠席であった。この他に数学オリンピック代表生徒4名も出席した。また引率者？として青山委員（広報WG）および筆者が同席した。

一同はまず科学未来館の館内を見学した後、毛利館長との対談に臨んだ。控え室に続く会議室に通され、緊張した面持ちで待つこと数分、毛利館長がお見えになり、対談が始まった。まず「先輩格」の佐藤君が、化学オリンピックの概略について説明した。その後の対談では、各人が予め質問を色々と考えていたのだが、逆に毛利館長の方から、代表選考の過程や、代表に選ばれた後のトレーニングの方法、またどのくらいの「センス」が要求されるのか？等々について種々質問がなされ、数学オリンピックの代表生徒も含め、一同少々たじたじとなりながらも、懸命な受け答えをしていた（写真1）。その後、毛利館長からは、新しい大学生活のスタートを目前に控えた生徒達に「学問では先人の築いてきたものをま

ず学ぶのは大事だが、それに終始せず、過去にとらわれずに新しいことを目指そう」「世界の『本物の研究者』の話の聞いたり、海外に出たりして視野を広げよう」「研究には『この研究をやるのは自分しかいない』という意気込みで取り組んでほしい」等々の励ましのお言葉を頂いた（写真2）。さらに一人一人にサイン入りのご著書も下さり、一同感激もひとしおであった。

以上、科学未来館での代表生徒の奮闘を簡単に紹介した。最後に、極めてご多忙な中、予定時間を大幅に超過して生徒たちのために多くのお言葉とご配慮を頂いた毛利 衛館長、および今回の対談の実現にご尽力下さった科学技術振興機構・前田義幸課長、水田寿雄係長はじめ関連各位に深謝する次第である。

本間敬之（早稲田大学理工学部）



写真1 毛利館長との対談に臨む化学オリンピック代表生徒。左から増田光一郎君、佐藤直人君、神戸徹也君、小山貴広君（化学工業日報社提供）。



写真2 毛利館長と談笑する化学オリンピック代表生徒（左側4名）および数学オリンピック代表生徒（化学工業日報社提供）。

全国高校化学グランプリ 2005 参加者募集

「化学」に自信のある高校生諸君は奮って参加して下さい。「全国高校化学グランプリ」は文部科学省「学びんピック」認定の高校生の化学・学力コンテストです。夏の高校野球になぞらえ「化学の甲子園」とも呼ばれています。

なお、1・2年生の優秀者から4名を選抜し、第38回国際化学オリンピック（韓国、2006年7月）に派遣します。

応募資格

高校生または高校と同等の学校（高専の場合は高校相当の学年）の生徒で、20歳未満の者。

選考手順

1.【1次選考：筆記試験】高校で学習した内容とそれをもとに応用した内容も含まれる）

7月18日（月、海の日）13時～16時に全国25会場で行います。

札幌会場（北海道大学）、旭川会場（北海道教育大学旭川校）、青森会場（弘前大学）、秋田会場（秋田大学）、岩手会場（岩手大学）、山形会場（山形大学）、

仙台会場（東北大学）、福島会場（安積高等学校）、東京会場（日本化学会）、名古屋会場（名古屋大学）、松本会場（信州大学）、富山会場（高岡高等学校）、金沢会場（金沢大学）、大阪会場（大阪星光学院高等学校）、

岡山会場（岡山大学）、松山会場（愛媛大学）、広島会場（広島大学）、福岡会場（福岡教育大学）、佐賀会場（佐賀大学）、長崎会場（長崎大学）、^①大分会場（大分大学）、^②熊本会場（熊本大学）、^③宮崎会場（宮崎大学）、^④鹿児島会場（鹿児島大学）、^⑤沖縄会場（琉球大学）

2.【2次選考：実験試験】

8月20日（土）に東京農工大学小金井キャンパス（東京

都小金井市）にて行います。2次選考に参加できるのは上位60名です。2次選考参加者のうち遠方の方には本会規定による旅費を支給します。ただし、参加のための移動、宿泊は参加者本人の責任で行ってください。

オリンピック代表選抜：「全国高校化学グランプリ2005」1次選考に参加して、国際化学オリンピックの参加資格のある高校1・2年生の中から成績優秀者8名を選考します。そして、学習・実験支援のうえ4名を選抜し、第38回国際化学オリンピックへ派遣します。国際化学オリンピックの参加資格についてはホームページをご覧ください。

表彰：優秀賞（賞状と副賞パソコン）、金賞・銀賞・銅賞（賞状と副賞図書カード）、国際化学オリンピック代表候補認定（賞状と副賞参考書）を予定しています。

参加費：無料

参加申込締切：6月30日（木）

応募方法：下記ホームページのエントリーフォーム、またはFAX用紙をダウンロードして申し込んで下さい。

問合せ・申込先：日本化学会化学教育協議会「全国高校化学グランプリ」事務局

〒101 8307 東京都千代田区神田駿河台15

電話 03 3292 6164 FAX 03 3292 6318

E-mail: grand-prix@chemistry.or.jp

ホームページ URL: <http://gp.csj.jp/>

主催：「夢・化学21」委員会、日本化学会化学教育協議会

特別協賛：独立行政法人 科学技術振興機構

後援：文部科学省、経済産業省

化学グランプリ・オリンピック委員会

〔委員長〕 本間敬之（早大）

〔主査〕 米澤宣行（東農工大）・渡辺 正（東大）・杉村秀幸（横国大）・森 敦紀（東工大）

〔委員〕 相田隆司（東工大）・青山好延（日化協）・市川朋美（森村学園）・伊藤敏幸（鳥取大）・伊藤真人（創価大）・岩田久道（宮武蔵野高）・岩藤英司（学芸大附属高）・上野彦彦（早大本庄高）・臼井豊和（新宿高）・尾池秀章（東農工大）・大野 力（JSF）・荻野賢司（東農工大）・尾中 篤（東大）・貝谷康治（八王子東高）・片岡正光（小樽商大）・香月義弘（直方高）・神谷信行（横国大）・神原貴樹（東工大）・北原和夫（ICU）・北村真二（日化協）・工藤一秋（東大）・越野省三（奈良女大附属中）・小林憲正（横国大）・小林 興（東学芸大名誉）・小林将浩（日化会）・小松 寛

（東大附属中）・坂井英夫（学芸大附属高）・重原淳孝（東農工大）・穴戸哲也（東学芸大）・清水昭夫（創価大）・下村武史（東農工大）・高木春光（広尾高）・田中義靖（駒場高）・谷川貴信（多摩大目黒高）・中込 真（和洋九段高）・中戸晃之（東農工大）・中野良一（JSF）・中村洋介（群馬大）・中山 亨（東北大）・並木雅俊（高千穂大）・引地史郎（東大）・廣瀬修二（アズ）・福士顯士（文科省）・藤岡和男（日比谷高）・細矢治夫（お茶大名誉）・前田直美（品川女学院）・前田義幸（JST）・町田 茂（東京高専）・松岡雅忠（駒場東邦中高）・真船文隆（東大）・水田寿雄（JST）・薬袋佳孝（武蔵大）・南 久之（化工会）・室賀嘉夫（名大）・山口素夫（首都大）・山内 薫（東大）・山内辰治（立教新座中高）・渡部智博（立教新座中高）